

2021年度に向けた教育研究目標

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

【A票：教育研究目標1】

(タイトル)

広範な分野の知識の獲得と政策分析力の形成

(狙い内容)

総合政策、メディア情報、都市政策、国際政策の広範な分野の知識を身につけると同時に、文書、文献の意味を的確に理解し、さらに自らの考えを正しく文章で表現するための読解力を養う。また、データを活用するために必要となる知識と技法の基礎を習得する。さらに、専門的知識の習得過程において、問題発見能力、デザインおよび計画能力の形成を目指す。これらを通じて、的確な状況判断と状況分析の能力と、政策および計画の立案に必要な能力を身につける。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

新カリキュラムを履修した卒業生全員が、それぞれ必要とする専門的な知識と総合的な政策分析力を習得している。

2. 達成度評価

評価指標	カリキュラム改訂 リサーチ・フェアでの政策分析・立案に関連する発表テーマ数	評価尺度	A：行動計画①②がともにAに達したレベル B：行動計画①②がともにBに達したレベル C：行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル D：行動計画の未着手
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A： B： C：行動計画①②がともにCに達したレベル D：行動計画①②のどちらかがCに達していないレベル

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		D 具体的な議論は開始されていない	D 将来構想検討WGが立ち上がったため、カリキュラム改正予定の変更が生じるようになった	D	C	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	D	D	実績 D 全学レベルの神戸三田キャンパス全体の将来構想が議論にあがったため、この結論を見極める必要がある。				
	見込・実績・目標 (値又は状況)	D 具体的な議論は開始されていない	D 将来構想検討WGが立ち上がったため、カリキュラム改正予定の変更が生じるようになった					

【2017年度の進捗状況について】

- 2016年度第三者評価結果に従い、「2. 達成度評価」と行動計画②における評価尺度を変更した。
- 行動計画①：昨年度回答した通り、将来構想WGが立ち上がり、年度末にその回答があった。そこで、本年度初めよりカリキュラム検討委員会での議論を準備したが、その後、収容定員の4%増加や神戸三田キャンパス全体の将来構想といった議論が全学レベルで開始された。将来構想WGの答申内容はこうした全学レベルの議論とも関連したものであったため、これらの議論の結論を待たずにカリキュラム改革を始めることは難しく、今は全学の議論がまとまることを待っている状況である。
- 行動計画②：教員に自らが担当するゼミにおいてリサーチフェアへ参加するよう学生を指導する。

<変更理由記入欄：評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度第三者評価結果に従い、評価尺度を変更した。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？	→ はい・ <u>いいえ</u>
<上記で「いいえ」を選んだ場合>	
①理由： 上記【2017年度の進捗状況について】で記載した通り、念頭にあるカリキュラム変更が全学レベルの議論とも関連したものであり、これらの議論の結論を待たずに始めることが難しいため。	
②今後必要な取組み： 神戸三田キャンパス全体の将来構想の議論が全学レベルで、早く進展するように促すこと。また、行動計画①に対して学部でできることは限られているため、行動計画②の目標達成に注力する。	

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 行動計画②について、順調に推移しており評価できます。(A)
- ・ 全学の議論待ちであれば、別の目標を設定してはどうでしょうか。(C)
- ・ 全学的な議論を踏まえて早急にカリキュラム等の改訂に取り組むことが期待されます。
・ 政策分析・立案関連の発表テーマ数の増加はたいへん評価できます。(D)
- ・ 行動計画①に関して、状況は理解できますが、できるだけ速やかな進展が望まれます。(E)
- ・ 神戸三田キャンパスの将来構想に関する議論の結論が早く出ることが期待されます。(F)
- ・ 今後一層の前進を期待いたします。(H)
- ・ 具体的な取り組みが求められます。(I)
- ・ 帳票中の記述にあるとおり、三田キャンパスの将来構想等の議論の行方を見守らざる得ない状況もあるかと思いますが、学生の広範な分野の知識獲得と政策分析力の形成に向けて、できる範囲の取組みを積極的に進めていただきたいと思います。(J)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

各分野における実務的専門的技術の獲得

(狙い内容)

総合政策(環境政策、公共政策、言語文化政策)、メディア情報政策、都市政策(建築)、国際政策の各分野において求められる専門的知識と専門技術を獲得する。そして、学生が卒業後に、産官学の各分野において、その知識と技術を活用できるようになることを目指す。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

より上位の専門的技術や資格取得をめざす学生が増えている。
大学院への進学希望者が増えている。

2. 達成度評価

評価指標	専門的資格取得に関連する科目の履修者比率。 大学院進学者数。	評価尺度	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル D: 行動計画の未着手
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: 行動計画①②がともにCに達したレベル D: 行動計画①②のどちらかがCに達していないレベル

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		C 行動計画①53% 行動計画②28名	C ①61% ②30名	B	B	B	A	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	C	D	見込み	B			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	行動計画①53% 行動計画②28名	①59% ②21名	①73% ②30名				

【2017年度の進捗状況について】

- 2016年度第三者評価結果に従い、「2. 達成度評価」と行動計画②における評価尺度を変更した。
- ゼミ等を通じて、現在の社会情勢下での大学院教育の必要性を伝えるよう努力している。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 目標に向かって順調に進捗しており、今後の進展が期待されます。(A)
- ・ 一級建築士受験資格取得登録者数、大学院進学者数は順調に推移しています。(C)
- ・ 概ね順調に進展しています。
- ・ とくに行動計画①の専門的資格の受講者数の改善についてはたいへん進んでいると評価できます。
- ・ 教育研究目標4の評価指標として、満足度や講演会数も1つの指標となりえますが、それ以外の指標も取り入れられることが期待されます。(D)
- ・ 順調に進展しており、評価できます。(E)
- ・ 国連・外交コースへの進学者の増加が期待されます。(F)
- ・ 順調に進捗しており、評価できます。(G)
- ・ 目標に向けて着々と進捗していると思われます。(H)
- ・ 行動計画2は他大学を含めるとありますが、今年度のように進捗が見られる場合、その内容について自大学と他大学の割合等分析することが望まれます。(I)
- ・ 大学院進学者数を増加させる取組みの中で、本学の総合政策研究科への進学者数を増加させる取組みも引き続き進めていただくことを期待しています。(J)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

語学力と的確なコミュニケーション能力の形成

(狙い内容)

英語を中心とする語学力および政策に関する議論やディベートの能力を向上させるとともに、コンピュータによる情報処理とプレゼンテーションの技法を習得する。このことを通して、将来的には国内外において自らの政策や計画を的確かつ論理的に説明できるようになることを目指す。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

すべての学部生がそれぞれのレベルに応じて、キャンパス内外で抵抗なく英語を話し、聞き、書くことができる。
 現在よりも多くの学生が海外研修や留学プログラムに参加している。
 多様なアクティブラーニングのプログラムが実施され、表現力やコミュニケーション力に自信を持つ学生の活動が活発化している。

2. 達成度評価

評価指標	学部独自の海外研修・留学プログラム数の増加 アクティブラーニング関連科目数の増加	評価尺度	A : 行動計画①②がともにAに達したレベル B : 行動計画①②がともにBに達したレベル C : 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル D : 行動計画の未着手
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : 行動計画①②がともにCに達したレベル D : 行動計画①②のどちらかがCに達していないレベル

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		C 海外研修FW 1件 アクティブラーニング 5件	B 海外研修FW 2件 アクティブラーニング 6件	B	B	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	C	C	実績 第3者評価結果に 従って評価尺度を 変更した影響。旧 尺度は目標を達成 している。				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	海外研修FW 1件 アクティブラーニング 5件	海外研修FW 1件 アクティブラーニング 7件					

【2017年度の進捗状況について】

- 2016年度第三者評価結果に従い、「2. 達成度評価」と行動計画②における評価尺度を変更した。
- 上海交通大学・蘇州大学(中国)、台湾成功大学(台湾)へ海外フィールドワークを企画・検討中である。
- アクティブラーニングについては、現在、企画募集中である。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？	→ はい・ いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>	
①理由: 2016年度第三者評価結果に従って評価尺度を変更した結果、当初目標通りに諸施策を行っても評価尺度が1ランク低下することになったため。	
②今後必要な取組み: 行動計画①について、現在検討中の上海交通大学・蘇州大学(中国)、台湾成功大学(台湾)へ海外フィールドワークのうちの少なくとも一つを実施する。	

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・計画どおりの進展が期待されます。(C)
- ・概ね順調に進展しています。(D)
- ・理工学部との共催やアクティブラーニング関連科目数の増加が順調に推移していて、評価できます。(E)
- ・順調に推移しており、評価できます。(H)
- ・行動計画1の「プログラム数」、行動計画2の「科目数」がそもそも「語学力と的確なコミュニケーション能力の形成」という教育研究目標のアウトカムにつながっているのかについて改めて検討が求められる。(I)
- ・語学力及びコミュニケーション能力の育成のため、フィールドワーク企画等が今後一層進められることを期待しています。(J)

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)

社会の諸問題を見据えた課題設定とそれを遂行するための能力の形成

(狙い内容)

各分野の教員が自らの能力を常に研鑽し、教員間あるいは教員と外部の専門家との協働作業を通して、幅広い研究課題を指導できるような体制を構築する。また、学生は、卒業論文、進級論文、ファイナルレポートなどの各学年に課せられる研究課題に対する取り組み、また各分野の専門教員による研究指導により、その問題発見能力、解決能力を研鑽し、そのことを通して社会の諸問題に対峙することができる能力を形成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学外フィールドワークをはじめ、PBL関連科目への取り組みが活性化している。

2. 達成度評価

評価指標	フィールドワークプログラムにおける満足度 学外の実務家、行政担当者などを招いた講演会数	評価尺度	A : 行動計画①②がともにAに達したレベル B : 行動計画①②がともにBに達したレベル C : 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル D : 行動計画の未着手
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : 行動計画①②がともにCに達したレベル D : 行動計画①②のどちらかがCに達していないレベル

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		C ハンズオン科目の拡大を検討、協議	C 満足度の調査方法を検討する段階	B	B	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	C	C	見込み	A			
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	ハンズオン科目の 拡大を検討、協議	ハンズオン科目の拡大 を検討、協議。 満足度の調査アンケート 作成に着手した。		第3者評価結果に 従って評価尺度を 変更した影響。旧 尺度では目標を達 成している。			

【2017年度の進捗状況について】

- 2016年度第三者評価結果に従い、「2. 達成度評価」と行動計画②における評価尺度を変更した。
- 行動計画①のアンケートについては本年度末に実施する予定である(要確認)。
- 行動計画②についてはその活性化に向け学部長室委員会で討議中である。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由: 2016年度第三者評価結果に従って評価尺度を変更した結果、当初目標通りに諸施策を行っても評価尺度が1ランク低下することになったため。

②今後必要な取組み: 行動計画②について、当初予定通りに来年度もう1件講演会開催を増加させる。

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・目標に向けて今後の進捗が期待されます。(A)
- ・プログラム、講演会が計画通り進展することが期待されます。(C)
- ・海外研修・留学プログラム数の増加が望まれます。(D)
- ・講演会のさらなる活性化が望まれます。(E)
- ・着実に前進していると思われます。(H)
- ・行動計画①の状況からフィールドワーク参加者の満足度が高いことが窺えます。今後、フィールドワークの機会の拡大等、活動が広がることを期待しています。(J)